



# 心和得天真

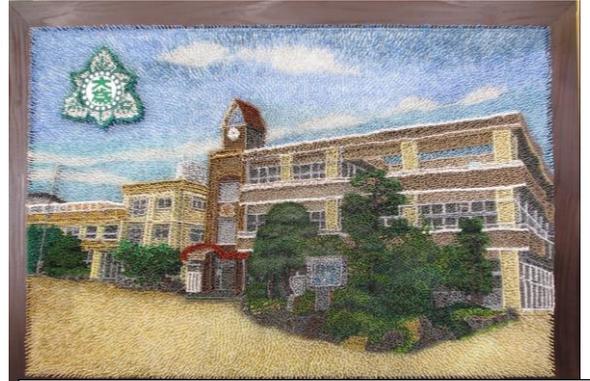
～心和して天真を得る～



山口市立大歳小学校  
学校だより  
令和7年3月

## 人にかけてし恵は忘れても・・・

先日、地域にお住まいの方から素敵なお話をうかがいました。少し視力に不安を抱えておられるその方は、久しぶりに外出された際、目の前の道に不安を感じられたそうです。そこへ通りかかった低学年ぐらいの2人の子にそのことを伝えると、2人はその方の手をとり、「段差があるので気をつけてください」などと声をかけ、共に歩いてくれたとのこと。学校にお電話いただき、そのときのお気持ちをうれしそうに伝えてくださったその方のお心と、子どもたちの優しさと思いやりのあるエピソードに、じんわりと心が温まりました。



この度、JA女性部大歳支部の方が作成された「つまようじアート」です。本校の校舎をモデルにした、地域の方の学校に対する愛が伝わる作品です。

かつて五千円札の肖像画にもなった新渡戸稲造氏の著書に「施せし情は人の為ならず おのがこゝろの慰めと知れ 我れ人にかけてし恵は忘れても ひとの恩をば長く忘るな」という一節があります。分かりやすく今の言葉で読み替えると「情けは人のためではなく、自分のためにかかるものです。自分が人のためにしたことは忘れても、人からしてもらったことは忘れてはいけません。」となるでしょう。「情けは人のためならず」という諺（ことわざ）がもとになっていると思われれます。（このことわざは、3年生の教室に「学びの跡」として掲示してありました。余談ですが、文化庁が実施している令和4年度「国語に関する世論調査」では、この諺の正確な意味が理解できていた人は全体の46.2%でした。平成22年度では45.8%、平成12年度は47.2%であり、半数以上の方が誤った意味で捉えているようです。）「情け」とは人をいたわる心、思いやりのこと。先のエピソードにおいて、2人の子にとっては、そのときの思いやりある行動は自分のためだとも思っておらず、すでに忘れてしまっている出来事かもしれません。けれども、ご連絡いただいた方にとって、つながれた手の温もりは忘れられないものになっているのではないかと思います。

さて、先月号で触れた本校のチャレンジ目標「おお・と・し」には、「一人ひとりがみんなのために」という前段があります。昨年度末に、児童で構成する代表委員会が出された意見を絞り込み、全校による投票を経て決まった、子どもたちが考えた「スローガン」のような言葉です。今年度は一年間、毎日の放送をはじめ、様々な場面でこの言葉が行き交い、子どもたちの意識に刻まれた合言葉になりました。年度末となった今、同じように児童によりチャレンジ目標の前段を検討する活動が行われています。現在は4つの言葉に絞られ、全校児童の決選投票結果を待っているところですが、きちんとした理由のもと、しっかりと考えられたどの言葉からも、来年度に向けた子どもたちの思いが伝わってきます。

一方、今年度の「一人ひとりがみんなのために」という合言葉を中心となって唱え、文字通り、大歳小学校「みんなのために」活躍した6年生は、3月19日、卒業の日を迎えます。来年度は中学生となる彼らも、自分たちが巣立っていった後の大歳小学校を支えるチャレンジ目標の設定に対して、熱心に意見を出し合う姿に胸を打たれました。彼ら自身は、決定したチャレンジ目標のことは「忘れて」しまうかもしれません。けれども、6年生から受けた「恩」と「大歳小への思い」は、いつまでも忘れられることなく、残された在校生の手によってよき伝統となっていくのでしょうか。こうして「人にかけてし恵は忘れても」「恩をば長く忘るな」を積み重ねて築かれた大歳小学校の歴史を刻む卒業証書授与式は、今年度で第130回を迎えます。

創立130年目である令和6年度も残すところ1ヶ月となりました。日々の教育活動や学校行事にご理解とご協力をいただいた保護者の皆様、様々な行事等にご参加いただき子どもたちに笑顔を与えていただいた地域の皆様、毎日子どもたちの安全な登下校を見守っていただいた見守り隊の皆様、地域とともにある学校づくりにご尽力いただいた学校運営協議会委員の皆様に対しまして、心から御礼申し上げます。そして、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。